

MEMO

活動日誌



渋川市（旧子持村）に出来た県産材センター

●昨年7月に、連合議員懇談会の皆さん達と、上記の県産材センターへ行ってきました。

この施設は、林業関係者が木材価格の低迷等によって間伐さえ満足にできないという深刻な事態を受け、平成18年に開設したものです。

【特徴】原則どんな木材でも、3メートルの長さにして、買い取ることによって、これまで捨てられてきた木も対象となり、素材生産者にとっては、売り上げの向上や経営改善につながる。

また高く売れる木を中心に選別する必要はなく、一定の範囲をそのまま切り出せばよいので、作業効率が格段に上がります。

買い取り価格は3カ月ごとに見直し、A材・B材・C材それぞれ、1立方メートル当たり1万2千円・8千円・4千円と価格が決まっているので、利益の見当が付けられます。

利根沼田地域としては、市場が近く運送コストも節減できるメリットもあるとのこと。

【課題】全国でも例を見ず、うまく機能すれば、間伐も進み、林業の活性化に期待が持てます。

しかし、当時原発事故の影響もあって、木材の皮や形の歪な木材が、大量に一時保管されていましたし、チップは丸紅に買い取っていたように見えたのですが、まだ、「群馬県独自の販路」が確立している状況でもないようでした。

次のステップとしては、「出口」（流通）の安定確保と拡充となるでしょう。

●昨年8月に、「ごったく広場」で食用廃油を回収している油の「元請」であるNPO法人群馬環境リサイクルサポートが、BDFスタンドをオープンさせたということで、現地説明会へ行ってきました。



高崎市の国道17号沿いにできたBDFスタンド

BDFとは、バイオ・ディーゼル・フューエルの略で、廃油を精製して、軽油と同様の使い道に復活させるものです。

販売価格は、激安とはならないが、環境に配慮した燃料ということで、私自身も広がり期待しながら、沼田市での回収へ携わっています。

これまで、環境省と経済産業省との間で、なかなか調整がつかず「出口」（販路）の拡大に弾みが付きませんでした。このほど、『100%のBDFのデメリットも克服するため5%BDF混入油を「B5」という商品として、ガソリンスタンドと同様に販売できることになりました。

代表の須藤さんに聞くと「これまで紆余曲折あったが、これで集めた廃油の販路に見通しが付いた。」と胸を撫でおろしていました。

国道沿いなので、大型トラックが大量に補給してくれたらいいなあとも思いつつ会場を後にしました。

編集後記

昨年から議会運営委員会で、議会改革について協議を重ねてきていました。

この1月から名称を「議会運営に関する検討委員会」として、議会運営委員会のメンバーと無党派の人を入れて、前回立ち上げた検討委員会で「積み残した」テーマを軸に議論を開始しました。

私は、いくつか検討して欲しい課題がありますが、当面、議会の公開の意味からも議場放映が導入されれば良いと考えていて、積極的に様々な意見を出していきたいと思っています。

こちらの経過や内容も、随時掲載していきますので、皆さんの声も聞かせてもらえれば、とも考えています。

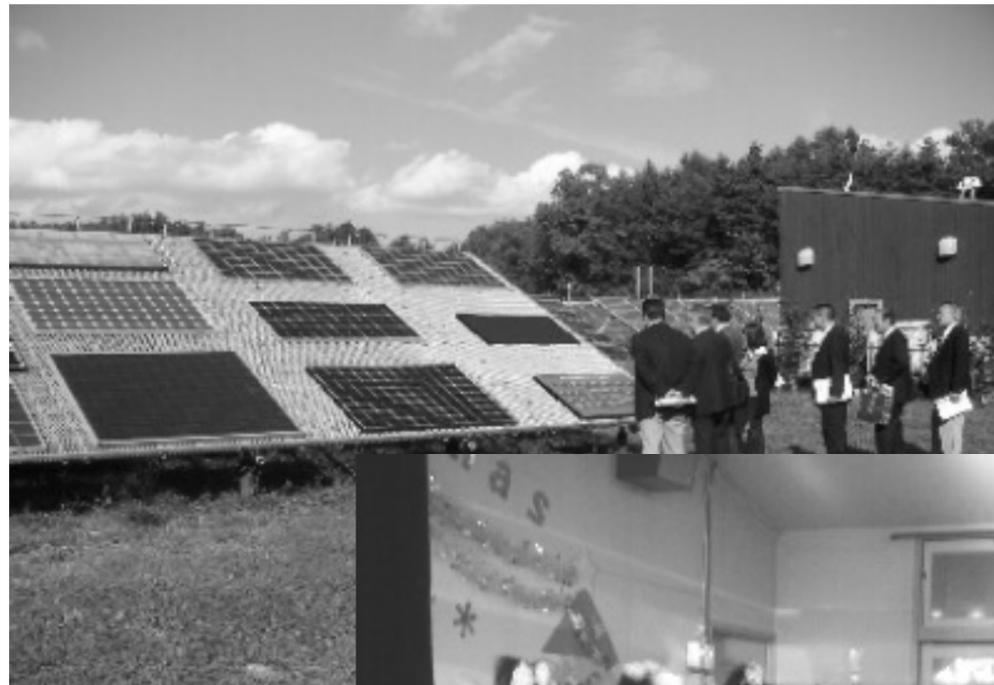
高柳勝巳と歩む会 ニュース

2012年冬・春期
NO37号

前号は34号でなく36号でしたので
お詫びして訂正いたします

発行責任者 高柳勝巳 〒378-0055沼田市柳町2570-11 割田アパート2号 ☎ 22-6860

HP <http://www.orahoo.com/ayumu-kai/> Eメール xx.takayanagi-po@au.wakwak.com



←昨年10月、民生福祉常任委員会の行政調査で行った山梨県北杜市のメガ・ソーラー実証実験地です。

写真は、海外含めた27社の発電効率などの特徴が比較できるスペースです。

横塚保育園クリスマス会で踊りを披露する園児たちとサポートする先生の笑顔です。

「少子化」なのに保育園入所の希望者は多く、長時間や休日保育の要望も増加し、働くお母さんの厳しい実態を浮き彫りにしています。



第37号目次

民生福祉	行政調査のページ	P2~4
北杜市	メガソーラー	
安曇野市	デマッド交通「あずみん」	
塩尻市	子育て支援と「えんぱーく」	

私の質疑（9月決算）のページ	P5~7
橋りょう維持補修事業・市営住宅管理事業・合併振興事業・電源立地地域対策交付金など	
活動報告のページ	P8
県産材センター（子持村）高崎BDFスタンド	

2011年9月定例会 高柳勝巳の
決算審査特別委報告
 いささか古い話で恐縮ですが、掲載スペースの関係もあり、今回報告させていただきます。

●職員研修事業 190万2595円



【問題意識】毎年研修はあり、それなりに必要性も認めているが、研修には職員の資質向上を行い持って沼田市へ貢献するものと、沼田市が現在抱えている「政策課題」を担当する部署が、直接先進地なりに出向いたりして、克服方法など学んでくる種類もあると考えているし、厳しい財政事情にある今日、沼田市は、後者へ比重を移すべきと考えたのです。

【質疑趣旨】昨年度、自然エネルギーで自立する町として有名な葛巻町への研修が概要書へ掲載されている。実践的な研修は重要と考えるが、(増やしていくために) アンケートではなく、研修に行かない人の評価を聞いたらどうか。

【答弁趣旨】葛巻町へは、環境課の意欲のある職員が自らの意思で研修へ行った。この意欲こそが重要で、研修のメニューを総務課が決めて参加を求める方法は、(バランスもあり) 困難と考えている。アンケート分析を丁寧に行い今後の研修に活かしていきたい。

【質疑趣旨】率先して自己研鑽をし、能力発揮が図れると、今度は「評価」が問われてくる。

しっかりした「基準」と、正しく評価できる役職者の育成も重要だが、どう考えているか。



【答弁趣旨】評価する側の重要性は認識している。H23年度のことになるが、人材育成方針の中で、この問題をどう扱っていくかを検討していく予定です。

●小中学校施設整備事業・教育用コンピュータ管理事業 約1億1000万円



【問題意識】教育への「投資」を惜しむ気持ちは、さらさらないが、毎年市内小中学校で億の単位のお金が…。私もそうだが携帯電話や家電

などの機能が高度過ぎて、使わない使えないオプションを持って余しているケースを、良く目にしたり耳にしたりします。

【質疑趣旨】費用対効果について、先生など実際使用している学校教育課とは、どの程度密に連携して重要度を確保しているか。

【答弁趣旨】予算要求の際、関係者と良く精査をして、費用の節約に努めています。

【質疑趣旨】ここ4年間の合計でも、約6000万円弱の予算縮減となっているのは把握している。リース料と保守点検料の割合はどの位か。

【答弁趣旨】リース料が約7500万円、保守点検料が約3000万円ですので、ほぼ7:3の割合です。今後も良く利用の状況把握に努めたいと考えています。

●市町村合併振興事業 2億20万9448円



【問題意識】合併後毎年2億円づつ10年間、国から主にソフト事業に充当分として、お金が配分されます。使い方の方針として、利息を活用していくとありますが、低金利ですし、財政も厳しい時だけに従来の、「果実集約型のソフト事業」の視点だけでベターなのかを聞きました。

【質疑趣旨】現在の利息は、約900万円となっているが、一体感の醸成と個性ある地域事業が名目となっているわけだが、どんな事業に充てているのか。

【答弁趣旨】白沢のふるさと祭り、菌原のふるさとまつりなど、市の振興発展へ資する事業へ使用しています。

【質疑趣旨】利息は、少ないなりに増える。基準も方針もなしに今後に向かえば、結果として何の役にも資さない無駄使いになる。

今後もこのスタンスは変化しないのか？また、精査の上で大きな事業へ取り崩して使用する考えの有無は？

【答弁趣旨】現在は、有効なソフト事業へどう活用するかという段階で、取り崩しの考えは現在のところありません。

しかし、合併振興基金条例の規定上では、取り崩してはいけないということもありません。

民生福祉常任委員会行政調査報告②

長野県塩尻市 子育て支援センターと児童館の事業内容について

【視点と目的】従来から要望の根強い「児童館」や未就学児への対策強化について、先進事例の調査という位置付けで行いました。

【経過と現在の状況】児童館は、市内8ヶ所に設置済で、18歳未満の子どもが帰宅後の利用が可能となっています。また、沼田市で言う学童クラブにあたる児童クラブも9ヶ所に設置され、ほとんどが児童館と併設となっています。

地域福祉計画策定を契機に設置された「ひろば会議」の議論は活発で、様々な意見や要望が出されていると聞きました。また、子育て支援センターや児童館の運営にも反映されていると推察しました。

一連の中で、子育て支援を取り組む女性が議員として2名誕生して、こうした施策の充実に貢献している背景も聞きました。

今後、沼田市地域福祉計画策定などに参考にすべき点も、多々あると感じました。

新年度より市民交流センター(部)の子育て支援センター(課)と組織改編されたと聞きました。

「脱商業」が市街地活性化の新しいキーワード

【沼田市との比較や課題】「えんぱーく」は、福祉以外の目的(街中再生、ビジネス支援、市民の相互交流)も含めた施設で、「まちづくり」の中の子育て支援と位置付けているようでした。

利用者は、1年強で70万人と聞き、高校生を中心に好調で、その分地域の児童館の利用は、この世代は少ないと聞きました。



図書館は吹き抜けとなっていて開放的です。



再開発ビルとして建設のえんぱーく(53億)

5階	イベントホール 合同会社オフィス テレビ松本ケーブルビジョン支社 など
4階	会議室 塩尻市ふるさとハローワーク 塩尻市商工課中心市街地活性化推進室 塩尻商工会議所 アクサ生命保険 など
3階	会議室 多目的ホール 音楽練習室 食育室 市民サロン学習室 など
2階	協働オフィス 図書館 ◆NPO法人青い空◆塩尻子ども劇場 ◆えんぱーくらぶ◆市民活動支援課など
1階	図書館 子育て支援センター 惣菜センターえんぱーく店

また、えんぱーくの道反対には、イトーヨーカドーが撤退したビルの3階部分が商業テナントで埋まらないということで、未就学児のフリースペースとして市が開設した「あそぼ」もあり、年額200円の登録性で1日中遊具のある場所で過ごすことが可能となっていました。

翻って、沼田市の中心市街地とGB21の状況を重ね合わせた時…。

街なか対策課、子ども課、観光交流課含めた市役所機能、商工会議所、NPOやボランティアのための協働オフィス、食育室、イベントホール、音楽練習室…これに加え高齢者支援関連、障害者支援関連、FMOZE etc

こうした施策と商業を組み合わせれば…